

新たなプランの策定について



策定スケジュール

- ①策定会議（3回程度）観光・地域づくり等の専門家（学識経験者等）・実践者など
- ②関係団体等との意見交換会（2回程度）現場で活躍するプレイヤーや関係団体など
- ③県民参加のワークショップ（1回程度）一般県民、宿泊観光事業者、市町村・観光協会等の若手職員など



新たな観光振興戦略プランについて

課題

○観光消費額の拡大（滞在時間・消費額単価の増）

- ・立山黒部、五箇山等有数の観光資源があるが、宿泊しない通り抜けが多く、観光消費が伸びにくい
 - ・本県の延べ宿泊者数、宿泊施設数は全国下位
- ⇒滞在周遊、観光消費拡大につながる富山ならではの観光コンテンツの磨き上げ・造成
- ⇒主要駅、空港等と観光地を結ぶ二次交通の充実

○高付加価値な観光地域づくり

- ⇒旺盛な消費を通じて高い経済効果が期待できる高付加価値旅行者の誘客・滞在の促進
- ⇒高付加価値旅行者のニーズに対応できる上質な観光サービスの提供体制整備や、観光ビジネス人材の育成

○観光産業の活性化

- ・訪日外国人旅行消費額は9.5兆円と過去最高を記録し、自動車に次ぐ第2位の規模
 - ・観光産業は、農林水産業や伝統産業、運輸業、サービス業など多様な産業に広い波及効果をもたらす戦略的な領域
- ⇒観光産業における「稼ぐ力」の向上と地域活性化の推進

○観光DXの推進

- ⇒データに基づくマーケティングとデジタル技術の活用による、稼げる観光地域づくりの推進

○オーバーツーリズムへの対応

- ・一部の観光地で観光客の集中による交通渋滞や混雑の影響
- ⇒観光需要の分散化・平準化

第4次富山県観光振興戦略プラン 骨子案

基本目標

「選ばれ続ける観光地～幸せな旅と暮らしを富山県から～」

目指す将来像

- 自然、食文化、祭り等の伝統文化や住環境など富山の日常にある幸せと上質な暮らしが多くの人に知られ、旅行者、滞在者、移住者が増加する
- 世界遺産五箇山、立山黒部、富山湾などここにしかない「特別感」のある観光地や、富山の暮らし自体が持つ魅力を最大限に活かし、付加価値の高い富山旅が提案され、人と経済が潤う地域が創出される。
- 観光が地域を支える成長産業として発展し、富山ならではの自然、食、文化が育む「誇り」と「豊かさ」が次世代へ継承される。

施策の柱

(現行)第3次富山県観光振興戦略プラン	
I 新たな時代の観光への対応	1 関係人口創出に向けた施策の拡大
	2 ウェルビーイング・魅力の再発見とマイクロツーリズムの定着
	3 デジタル技術の活用
	4 ウィズコロナへの対応
II 持続可能な観光地域づくり	1 戦略的な観光地域づくり
	2 広域観光の拠点化
	3 富山らしい魅力創出
III ターゲットに応じた戦略的なプロモーション	1 三大都市圏を中心とした国内誘客の推進
	2 海外誘客の推進
	3 ビジネス観光の推進



(新)第4次富山県観光振興戦略プラン	
I 新たな時代の観光への対応	1 観光産業の高付加価値化
	2 観光DXの推進
	3 オーバーツーリズムへの対応
II 持続可能な観光地域づくり	1 戦略的な観光地域づくり
	2 広域観光の拠点化
	3 富山らしい魅力創出
III ターゲットに応じた戦略的なプロモーション	1 大都市圏を中心とした国内誘客の推進
	2 海外誘客の推進
	3 ビジネス観光の推進

・高付加価値化
・DMO、DMC強化
＜観光産業の稼ぐ力を磨く仕組みづくり＞

・観光コンテンツ造成
・滞在周遊促進
＜受入環境整備＞

・プロモーション
・販路開拓
＜マーケティング戦略＞

第4次富山県観光振興戦略プラン 骨子案

計画期間

令和9年度～令和13年度

基本目標 / Basic Goal

選ばれ続ける観光地
～幸せな旅と暮らしを富山県から～



人口減少社会で
持続可能な富山県を創る



観光を付加価値を
生み出す産業へ



子どもたちが
戻りたい富山に

目指す将来像 / Vision

富山ならではの自然・文化・暮らしの魅力が国内外に広く認知され、
付加価値の高い観光を通じて人と地域経済が潤い、地域への誇りと
活力が次世代へ継承される。

人と経済が潤う地域を創出する。

— 施策の流れ —

I

FOUNDATION

新たな時代の観光への対応
県内の稼ぐ力を高める

1 観光産業の高付加価値化

2 観光DXの推進

3 オーバーツーリズムへの対応



基盤を活かして
受入整備へ

II

DESTINATION

持続可能な観光地域づくり
次世代につなぐ受入環境を整える

1 戦略的な観光地域づくり

2 広域観光の拠点化

3 富山らしい魅力創出



整備した地域を
世界に発信

III

PROMOTION

**ターゲットに応じた
戦略的なプロモーション**
富山ファンを呼び込む

1 大都市圏を中心とした国内誘客の推進

2 海外誘客の推進

3 ビジネス観光の推進

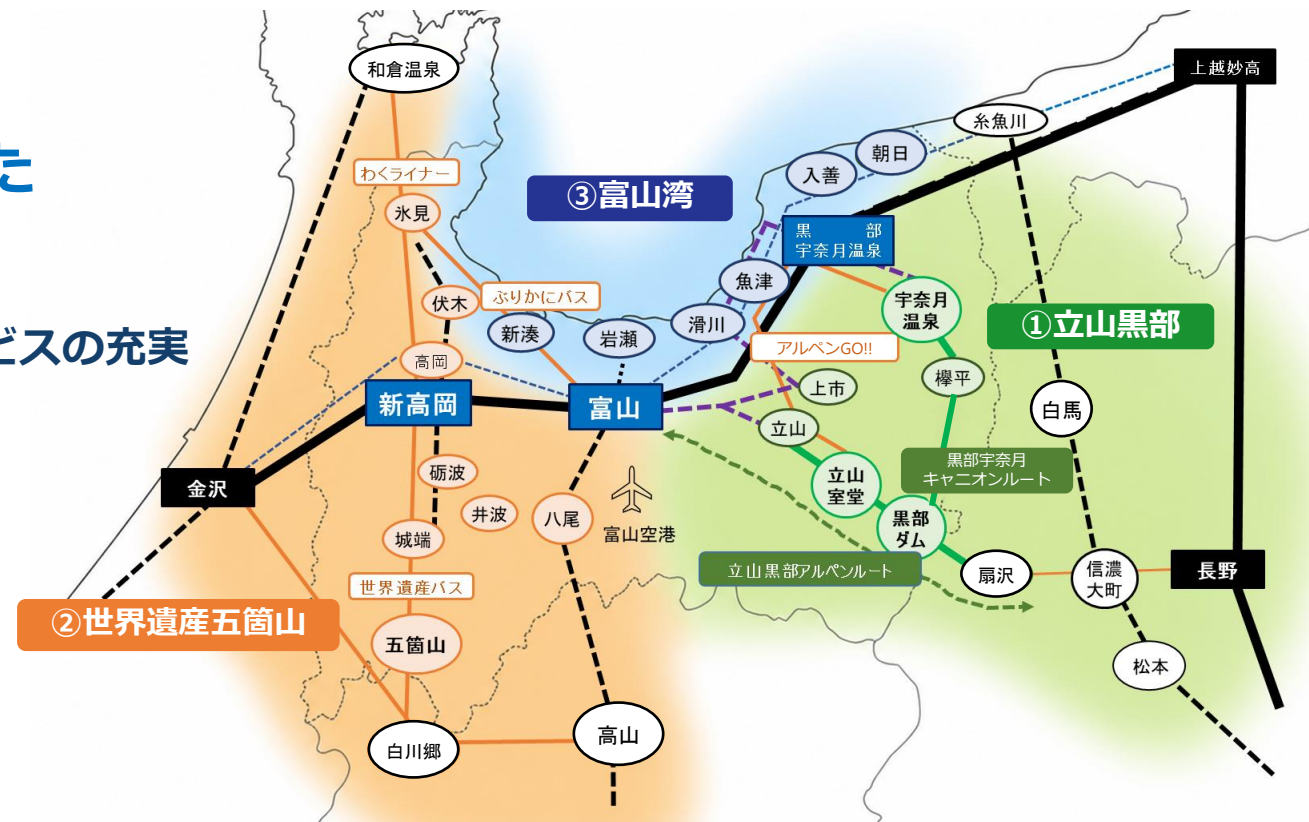
5年間で実現をめざす観光の姿（方向性）

○ 立山黒部・世界遺産五箇山・富山湾を核とした周遊滞在の促進

- ①立山黒部を中心とした、富山、黒部峡谷、宇奈月、長野等をつなぐ広域観光周遊ルート形成
- ②世界遺産五箇山を中心とした、県内外の観光地を結ぶ面的な広域観光周遊ルートの形成
- ③富山湾を中心とした、食、絶景、体験などを楽しむ広域観光周遊ルートの形成

○ 国内外の旅行者の多様なニーズに対応した 上質なサービス提供体制整備

- ①DMCを中心とした、FIT（外国人個人旅行者）向けサービスの充実
- ②高付加価値宿泊施設の充実
- ③上質なサービスを提供できる観光人材の育成



観光立国推進基本計画（第5次）（概要）

課題・方向性

- 観光は、訪日外国人旅行消費額は9.5兆円（2025年速報）、そしてその経済波及効果は約19兆円に及ぶなど、地域経済や日本経済の発展をリードする戦略産業※である。また、国際相互理解の促進など、多面的に重要な意義を有する。
※訪日外国人旅行消費額15兆円を達成した場合、経済波及効果は約30兆円規模と、幅広い産業に裨益することが見込まれる。
- 他方、観光を巡り顕在化している課題として、混雑・マナー違反等の個別課題への対応、特定の都市・地域への集中是正など、オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策の強化が不可欠。加えて、深刻な人材不足への対応、観光の高付加価値化、国内交流の拡大、災害や国際情勢等の様々なリスクに対する強靱性の確保などの課題への対応が不可欠。
- そのため、「観光の持続的な発展」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」、「観光と交通・まちづくりとの連携強化」、「新技術の活用・本格展開」を施策の方向性として位置づけ、地域住民と観光客双方の満足度を向上させ、交流人口・関係人口を拡大するとともに、「住んでよし」「訪れてよし」に加え、「働いてよし」の観光産業の実現を推進するための施策を強力に推進。

施策の柱

インバウンドの戦略的な誘客と 住民生活の質の確保との両立

- ・ 局所的・地域的に生じている混雑・マナー違反等の個別課題への対応（民泊関係含む）
- ・ 地方誘客を進めるための広域的な体制の整備
- ・ 地方誘客及び消費拡大に効果の高い観光コンテンツの充実
- ・ 地方部への交通ネットワークの機能強化

計画期間：
令和8～12年度
（2026～2030年度）

国内交流・アウトバウンド拡大

- ・ 休暇の分散・旅行需要の平準化
- ・ 関係人口の創出や二地域居住の促進
- ・ 国内・海外旅行の需要喚起に向けた機運醸成
- ・ 観光復興に向けた再生支援

観光地・観光産業の強靱化

- ・ 持続可能性を高めるためのインバウンド市場・観光コンテンツの多様化
- ・ 観光DX、省力化投資等による生産性向上
- ・ 健全な競争環境の整備
- ・ ユニバーサルツーリズムなど多様なニーズへの対応

目指すべき 2030年の姿

戦略産業として、日本の魅力・活力を次世代にも持続的に継承・発展させていく観光

観光立国推進基本計画（第5次）の5つのポイント

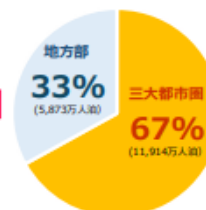
1. 観光を「戦略産業」として明記

- 観光は、インバウンド消費額9.5兆円、経済波及効果19兆円、自動車産業（17.6兆円）に次ぐ**第2の輸出産業**。
- 地域経済や日本経済の発展をリードする戦略産業としてさらに発展させるため、地方誘客などのインバウンドの戦略的な誘客を推進。

2. 人数だけを追い求めるのではなく、内容や質を重視

- インバウンド目標6,000万人【目標2】のうち、その3分の2に相当する**4,000万人をリピーターとする目標を設定**。【目標3】
※リピーターは地方部への訪問意欲が高く、日本文化・習慣への理解が深い傾向にあり、適切なマナーでの滞在も期待できる。
- インバウンドの地方部における延べ宿泊者数を1.3億人泊とし、三大都市圏と同等（1：1）とすることを目指す。【目標6】
- 国際情勢等の様々なリスクに対する強靱性を確保するための、様々な国・地域への戦略的プロモーションの実施。
- インバウンド消費額15兆円、消費額単価をまずは25万円など、消費額拡大を重視。【目標4、5】
※消費額単価の高い欧米豪市場等へのプロモーションや高付加価値化を推進。

外国人延べ宿泊者数の割合（2025年）



三大都市圏：埼玉圏、千葉圏、東京圏、神奈川圏、愛知圏、京都圏、大阪圏、兵庫圏
出典：観光庁「観光統計統計調査」（2025年第2次速報版）

3. 「インバウンドの戦略的な誘客と住民生活の質の確保との両立」を基本計画の柱として位置づけ

- オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策を強化。
具体的には、国際観光旅客税も活用しつつ、過度の混雑やマナー違反対策、各種民泊の適切な運営確保等の個別課題への対応や観光コンテンツの充実、地方部への交通ネットワークの機能強化等を通じた地方誘客・需要分散を推進。
- 観光客の戦略的な誘客と住民生活の質の確保との両立に取り組む地域数の目標を新設（現状から倍増）。【目標1】
- 「観光と交通・まちづくりとの連携強化」を方向性に明記。観光まちづくりによる美しい街並みへの再生や、観光客の需要を取り込むことによる「地域の足」の確保など、観光客と地域住民の双方の満足度向上を推進。



スマートごみ箱の設置

4. 国内旅行消費額30兆円を目標とするなど日本人の旅行促進（国内・海外）

【国内交流拡大】

- 国内旅行は、旅行消費額全体の7割を占める不可欠な市場であることを明記し、国内旅行消費額を30兆円とする目標を設定。【目標8】
- 今後増加が見込まれる高齢者等の旅行需要を喚起するため、ユニバーサルツーリズムを推進。
- ラーケーション等の促進など旅行需要の平準化、二地域居住の促進。

【アウトバウンド拡大】

- アウトバウンド拡大を新たな柱に位置づけ、アウトバウンド数を過去最高値超えとする目標を設定。【目標10】
- パスポート手数料の引下げなどの新たな施策を実施。



バリアフリー客室の整備
（ユニバーサルツーリズムの促進）



国営公園等での自然的・歴史的
景観等の観光資源活用
（首里城の復元）

5. 「住んでよし、訪れてよし」に加え、「働いてよし」の観光産業の実現

- 宿泊業が創出した付加価値額に関する目標を新設。【目標11】 ※宿泊業の平均賃金の推移も注視
- 観光DX・観光人材の確保を推進。